

# 29 (有)米八 (新潟県新潟市)

**実証課題名** 農業データの一元管理によるスマート農業体系の実証

**構成員** 新潟市(代表機関)、新潟県農業総合研究所、新潟農業普及指導センター、井関農機(株)、(株)トセキ関東東甲信越、国際航業(株)、(株)スカイマティクス、ウォーターセル(株)、(有)米八

**背景・課題**

- 新潟市は全国市町村第1位の水田耕地面積を誇るが、農業者の高齢化や後継者不足により、農業就業人口は年々減少しており、広大な農地の管理や新規就農者への知見・技術伝承が大きな課題となっている。
- こうした農業分野の課題解決を図るため、革新的技術を有する大手企業や農業ベンチャーと連携し、これまでいくつもの実証実験を進めてきたが、スマート農業の普及には、成果の見える化や得られたデータの管理・活用が課題であることが分かった。



### 本実証プロジェクトにける想い

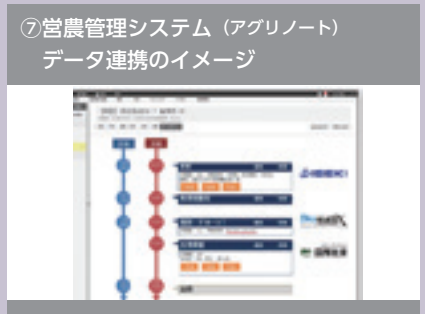
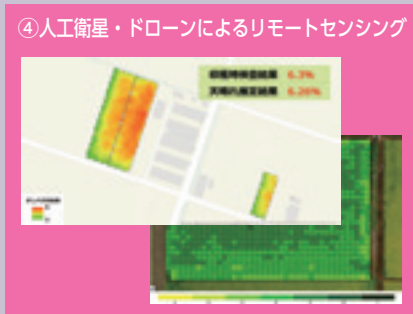
- 企業が有する革新的技術を組み合わせ、得られた農業情報をクラウド型営農管理システム「アグリノート」に集約し一元管理することで、稲作の省力化や低コスト化、高品質化に向けた定量的評価を行います！
- 2018年から先行して実施してきた「新潟市スマート農業企業間連携実証プロジェクト」の実証項目・面積等を大幅に拡充し、更なるデータ連携を進め、農業者にとって使いやすいシステムを構築し、体系化を目指します！

- 目標**
- 水稻の収量及び品質の向上
  - 企業間のデータ連携により農業者にとって利便性の高いシステムを構築

### 実証する技術体系の概要

**要素技術** ①自動操舵システム、②可変施肥田植機、③水田センサ・フィールドサーバ、④人工衛星・ドローンによるリモートセンシング、⑤ドローンによる農薬散布、⑥収量センサ付コンバイン、⑦営農管理システム(アグリノート)

時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
「見られる」ポイント	①	②	③	④	⑤	⑥	※⑦は通年					



**問い合わせ先**

- ▶実証代表 新潟市農林水産部ニューフードバレー特区課 E-mail: foodvalley@city.niigata.lg.jp
- ▶視察等の受入について 新潟市農林水産部ニューフードバレー特区課 近まで